The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	巻頭の辞
Author(s)	大久保, 邦彦
Citation	国際公共政策研究. 2017, 22(1)
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/65087
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

巻　頭　の　辞

野村茂治先生と竹内俊隆先生のご退職を記念し、また国際公共政策研究科関係者より先生の長年の貢献やご指導に対する心からの感謝と惜別の思いを込めて、ここに『国際公共政策研究』第 22 巻第 1 号を野村茂治教授・竹内俊隆教授退職記念号として刊行することになりました。

両先生は、大阪大学と大阪外国語大学の統合により、平成 19（2007）年に OSIPP に来られました。ご専門は経済学と政治学で異なりますが、両先生とも国際的なことが研究テーマで、卓越した語学力を駆使して OSIPP や法学部での研究・教育に尽力されました。

野村先生は、昭和 50（1975）年 3 月に金沢大学法文学部経済学科を卒業され、昭和 55（1980）年 3 月に名古屋大学大学院経済学研究科博士後期課程を単位修得退学後、昭和 55 年 4 月、名古屋大学経済学部助手に採用されました。その後、昭和 56（1981）年 10 月に大阪外国語大学外国語学部講師に採用され、昭和 60（1985）年 1 月に同助教授に、平成 10（1998）年 1 月に同教授に昇任されました。そして、平成 19（2007）年 10 月から大阪大学大学院国際公共政策研究科教授として活躍されました。平成 24（2012）年 4 月から 2 年間は、大阪大学教育研究評議員および国際公共政策研究科副研究科長を務められました。

研究については、マクロ経済学を中心に財政政策や金融政策などを研究され、大阪銀行協会から、平成 8（1996）年には論文「コーポレートガバナンスと企業金融」で優秀賞を、平成 14（2002）年には論文「中国におけるコーポレートガバナンスと証券市場」で特別賞を受賞するなど、学術的に高い評価を得ています。また、近年では、市場メカニズムの不完全性や人間の合理性の不完全性に関心を深め、市場を補完する思いやりや倫理的な感性の必要性を主張されてきました。主著の『夫婦間の協調と家族の和』では、経済学の立場から家族の絆を強調されています。

教育については、開発経済学・国際経済学などを専攻する多数の院生を指導し、有能な人材を輩出されました。また、韓国外国語大学、淡江大学（台湾）、サントトーマス大学（フィリピン）、タマサート大学（タイ）、対外貿易大学（北京）、内蒙古財経大学などの海外の大学と研究交流を行い、OSIPP の国際交流を推進されました。

野村先生は学生との交流にも積極的で、学生から非常に慕われていました。「みんなのキャンパス」という授業評価のサイトの「かなり学生との交流を重視。お父さん的存在として卒業生から在校生まで、多くの学生に慕われている。のほほんとしている為、一見頼りないが器のでかさがすごい！！」という書込みが、野村先生の人格を的確にとらえています。研究室では電気コンロを使って、留学生としばしば鍋パーティーを開かれました。

野村先生は非常な努力家で、退職されるまで毎日、小野原にある宿舎から車で 20 分ほどかかる道のりを自転車で通勤されていました。

野村先生は、平成 29 年（2017）年 9 月から、上海外国語大学で教鞭をとられることになっています。今後も日中友好のために努力されることでしょう。

竹内先生は、昭和 50（1975）年 3 月に京都大学工学部衛生工学科を、昭和 53（1978）年 6 月にオレゴン大学政治学科を卒業され、昭和 55（1980）年 6 月にワシントン大学大学院政治学研究科修士課程を、昭和 56（1981）年 6 月にスタンフォード大学大学院東アジア研究科修士課程を修了されました。昭和 63（1988）年 4 月に帝国女子短期大学助教授に採用された後、平成 4（1992）年 4 月に大阪外国語大学外国語学部助教授となられ、平成 15（2003）年 1 月に同教授に昇任されました。そして、平成 19（2007）年 10 月からは大阪大学大学院国際公共政策研究科教授として活躍されました。また、平成 7（1995）年 9 月から 2 年間、ジュネーヴの軍縮会議日本政府代表部で専門調査員（法律顧問）として、包括的核実験禁止条約などの条約交渉に携わられました。先生は、研究者としてだけではなく、外交官としても、軍縮分野で活躍されたのです。

竹内先生のご専門は数理政治学と国際関係論です。先生はゲーム理論を用いた数理的手法をわが国ではかなり早い時期に国際関係の分析に活用されましたが、この分野における代表的著作が『政策研究のためのゲームの理論』です。国際関係論の分野における主な業績は核軍備管理論や安全保障論に関するものですが、核軍備管理論における業績としては、「包括的核実験禁止条約の交渉経緯と三つの争点」や「北朝鮮の核実験は『失敗』なのかー爆縮型核実験の技術的困難さー」が挙げられます。両論文は核実験の実施やその禁止をめぐる軍備管理に関わる問題を論じたものですが、前者は交渉の現場にいた実務者としての視点を生かし、後者は工学部出身の技術的学識を活用したもので、いずれも稀有の学識に基づくものです。安全保障論の研究としては、先生の編著による『日米同盟論―歴史・機能・周辺諸国の視点』が「日米同盟」を時間軸（歴史）・機能軸・地理軸（周辺諸国の見方）の 3 つの視点から包括的に分析する新しい枠組を提示しています。

教育においても、先生は多くの院生の指導にあたり、有能な人材を社会に輩出されました。また、『ガイドブック国際関係論』や『Understanding International Relations : The World and Japan』などの教科書の制作にも編著者として力を注がれました。

社会貢献の面では、軍縮会議日本政府代表部専門調査員のほか、陸上自衛隊中部方面隊オピニオンリーダーや大阪市が設置した大阪・サンフランシスコ姉妹都市提携 50 周年記念ワーキンググループの座長を務められました。

竹内先生は、京都大学工学部をご卒業後ほどなく渡米され、大学院で国際関係の研究に従事されましたが、米国の大学の学費は高額で、奨学金を得ても生活は楽ではないため、効率のよいアルバイトを探され、アラスカやカナダ沿岸で操業する大型加工漁船の船員をされました。乗船地に辿り着くまではアムンゼンの極地探検を思わせる苦労があり、非常に厳しい職場であったそうです。先生の豪放磊落な性格と語学力は、この時に培われたのだと思います。また、留学終了後は、アメリカから欧州、東南アジアをバックパック旅行して帰国されたそうです。こうした経験を活かして、今も京都外国語大学外国語学部で教鞭をとられています。

静と動、漫才で言えば、ボケとツッコミというように、対照的なキャラクターの両先生がおられなくなり、研究室のあった豊中総合学館の 5 階はずいぶん静かになりました。両先生がますますお元気でその力を発揮され、新天地でご活躍されることを祈念するとともに、今後とも、国際公共政策研究科の後進のご指導を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

平成 29 年 9 月

大阪大学大学院国際公共政策研究科長
大久保　邦彦